1 研究の概要

(1) 研究主題

佐賀県小・中学校学習状況調査(全国調査も含む)から見える課題の解決に向けた小学校国語科の授業改善

(2) 小学校国語科における課題

今までの佐賀県小・中学校学習状況調査(以下、学習状況調査)から見える小学校国語科の課題は、以下のようになっています。

- ①中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと
- ②自分の考えを求められた様式に合わせて書くこと
- ③文章の内容を的確に捉えて、要旨をまとめること

(3) 課題解決に向けて児童に必要な力

- ・段落相互の関係を捉えながら読む力
- ・書かれている内容を捉えて、求められた様式に合わせてまとめる力
- ・文章の内容を的確に捉えて、要旨をまとめる力

(4) 研究の目標

学習状況調査から見える小学校国語科の課題を解決するために、解答を分析した結果を基にした授業改善策を探ると同時に、単元で力をつける小学校国語科の授業改善の在り方を探る。

(5) 研究の目標について

21 世紀型能力の提案がなされ、学力観の転換期を迎えています。国語科は学力の中核を支える教科として、大きな役割と責任を担っていることはいまでもありません。

本研究では、学習状況調査の解答をより詳細に分析することで、児童がどのように思考し、どこにつまずき、何に困っているのかを解明しようと考えました。その結果を、私たちの毎日の授業改善に生かしていったなら、教室は、未来に向かって生きる児童に「生涯学び続けられる学力」を付ける学びの場となることでしょう。また、児童の実態を知れば知るほど、「単元で学び、単元で力をつける」意義を深く考えさせられました。学びの目的や方法が明確に分かる学習課題、ゴールの姿が見える学習計画、児童が学びの必然性を感じ、主体的に学習することのできる言語活動、学習者自身がついた力を実感できる振り返り。学習者である児童が主体的な思考や判断を伴う学びを実現するために教師の位置付けた言語活動の中で、教師の期待をはるかに上回る学びをする児童の姿が見られたら、こんなに素晴らしいことはないのではないのでしょうか。「学び浸っている姿」こそ、私たちが求めたい児童の姿なのです。毎日の教室の中で、学び浸っている児童の姿を求めて、授業改善の提案をしたいと考えます。

(6) 研究の方法と内容

- ・平成 27、28 年度の学習状況調査の結果を基に、研究委員の所属校における実態調査を行う。実態

調査から見える課題の解決に向けて、児童に必要な力を明らかにする。

- ・課題の解決に向けて児童に必要な力を高めるために、佐賀大学と連携して「単元で学び、単元で力をつける」国語科の授業づくりを提案する。
- ・提案した授業づくりを基に研究委員と協力して手立てを考案し、検証授業を行う。その後、授業改善の効果を検証する。
- ・授業改善に関わる構想及び授業実践(授業展開案、ワークシート、考察)、成果と課題を Web サイトで発信していく。

(7) 本研究のプロセス

本研究は、以下のプロセスで進めていきます。

【1 年次】

- ①佐賀県学習状況調査の Web 報告書から、今までの小学校国語科教育の課題を整理する。
- ②平成 27 年度佐賀県学習状況調査〔4 月調査〕の解答を分析し、誤答傾向を考察する。
- ③課題を焦点化し、課題解決に向けて必要な力を考える。
- ④国語の授業改善のポイントを探る。
- ⑤課題解決に向けて必要な力をつけるための、具体的な手立てを考える。
- ⑥手立ての有効性について検証する（検証授業①、検証授業②）。
- ⑦成果と課題を明らかにする。
- ⑧平成 27 年度佐賀県学習状況調査〔1 2 月調査〕の解答を分析し、誤答傾向を考察する。
- ⑨2 年次の研究の方向性を決める。

【2 年次】

- ⑩平成 27 年度佐賀県学習状況調査〔1 2 月調査〕Web 報告書を基に課題を修正する。
- ⑪課題解決に向けて必要な力を考える。
- ⑫「授業改善のポイント」を生かし、課題解決に向けた具体的な手立てを考える。
- ⑬手立ての有効性について検証する（検証授業①、検証授業②）。
- ⑭成果と課題を明らかにする。
- ⑮平成 28 年度佐賀県学習状況調査〔1 2 月調査〕の解答を分析し、誤答傾向を考察する。
- ⑯2 年間の研究をまとめる。